



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-5955-7662）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

「結核接触者健康診断」の話

「結核接触者健康診断」をご存知だろうか？ これは、結核患者の接触者の中から潜在性結核感染者と新たな（できるだけ非感染性の段階で）結核患者を早期発見して治療を行い、感染源・感染経路の探求を目的に行われる健康診断である。結核と判明した患者が医療機関を受診していた場合には、診療科に関係なく通院していたすべての診療所・病院で感染者の有無を調査することになる。今回、当院を受診した患者が後日肺結核と判明し、「結核接触者健康診断」を受けることになった。まれな経験であり、参考までにまとめた。

- 1) 発端：地元の保健所から「以前にそちらを受診した患者が肺結核と判明した。ついては受診時の状況を確認するので面談したい」との連絡。晴天の霹靂であったが、まず当日のカルテをチェックして該当患者の受診時間と滞在時間を概算し、その時間帯に勤務していたスタッフを特定（このような事態では電子カルテは極めて有用）。スタッフに不安が広がったが、「必ず感染するわけではない、もし感染するならまず診察した私」と説明し院内の動揺を抑えた。
- 2) 面談：保健所職員の聞き取り調査は患者の記録に加え、当日の受診時間帯に勤務していたスタッフの健康診断記録を準備して行われる。当院では時期的に医療事務職員と看護師は常時マ

スクを着用しており、また患者と近距離の接触はなかったことを説明。面談では、至近距離で診察した医師が一番ハイリスクという結論で一致。結核接触者健康診断の対象者は保健所内で検討して決定されるため、連絡待ちとなる。

- 3) 指示：保健所からの連絡は「健康診断の対象は診察した医師のみ」と予想通りであった。接触から2カ月後にインターフェロンγ遊離試験（IGRA）を受けるように指示。
- 4) 準備：胸部X線を撮影し、異常所見などないことを確認。IGRAにはQFT-3GとT-SPOTの2種があり、どちらが今回の場合に適しているのかを呼吸器内科の友人に相談。数字で定量できて経時的に抗体価の推移を捉えやすいとのアドバイスをもらい、検査はQFT-3Gを選択（勘違いしないでいただきたいが、感染の有無の定性検査にはT-SPOTも優れた検査法であり、QFT-3Gが優れているという意味ではない）。
- 5) 検査：接触機会の2カ月後にQFT-3Gの採血検査を施行。
- 6) 結果：対象者の医師は「陰性」、保健所に報告。
- 7) 終息：後日、保健所より結核接触者健康診断終了の連絡を受ける。患者が受診した各医療機関での健康診断の総括では「今回の患者に関係した感染者はみつからなかった」とのことであり、一連の騒動は終息をみた。

患者は複数の医療機関を受診していたので感染の拡大が危惧されたが、最終的に感染者が1人も



おらず、無事に終息を迎えた。今回は受診患者の結核が判明したことから健診に進展したが、もし本人が内科を受診していなかったら結核とはわからないまま受診を重ねていた可能性が当然考えられる。肺結核と皮膚科はさほど関係ないと思って

いたが、地雷は身近にあることを痛感させられた一件であった。

ペンネーム：宮沢賢治ファン

(青森県)

「皮膚病診療」既刊号のご案内

Vol.36, No.1	結節性紅斑とその周辺	No.9	光学療法
No.2	滲出性紅斑とその周辺	No.10	類天疱瘡とその周辺
No.3	網状を呈する皮膚疾患	No.11	天疱瘡とその周辺
No.4	生物学的製剤・有用性	No.12	囊腫
No.5	生物学的製剤・副作用	増刊号	薬疹症例集
No.6	隆起する皮膚疾患	Vol.39, No.1	好発部位を外れた皮膚病
No.7	陥凹する皮膚疾患	No.2	外国語で表現されやすい皮膚病
No.8	汗と皮膚病	No.3	鼻の皮膚病
No.9	内分泌異常と皮膚病	No.4	痛みを伴う皮膚病
No.10	小児の皮膚病・炎症性	No.5	発熱を伴う皮膚病
No.11	小児の皮膚病・腫瘍、母斑	No.6	代謝性疾患と皮膚病
No.12	ワクチンと皮膚病	No.7	接触皮膚炎—2017
増刊号	signs & symptoms	No.8	バリア障害
Vol.37, No.1	外用製品による皮膚病	No.9	顔の腫瘍(悪性腫瘍)
No.2	関節痛と皮膚疾患	No.10	口唇・口囲の皮膚病(炎症性)
No.3	肝臓病と皮膚疾患	No.11	顔の結節
No.4	毛髪関連疾患	No.12	乾癬—2017
No.5	接触皮膚炎—2015	増刊号	皮膚科救急診療マニュアル
No.6	呼吸器と皮膚	Vol.40, No.1	心に残る症例—40周年記念特別号—
No.7	腎と皮膚	No.2	原因が明らかになった皮膚病
No.8	肉芽腫性炎症	No.3	頸部・項部の皮膚病
No.9	再発する皮膚病	No.4	足趾の皮膚病
No.10	手指の皮膚病	No.5	腋窩の皮膚病
No.11	手の皮膚病	No.6	色素沈着を伴う皮膚病
No.12	痒みのない皮膚病	No.7	細菌感染症
増刊号	皮膚真菌症症例集	No.8	サルコイドーシス—2018
Vol.38, No.1	筋膜・皮下組織の疾患	No.9	外陰部・肛門の皮膚病(女性)
No.2	物理化学障害による皮膚病	No.10	外陰部・肛門の皮膚病(男性)
No.3	播種状の皮膚病	No.11	血液疾患と皮膚病
No.4	鑑別に苦慮した皮膚病(1)	No.12	皮膚に症状が出る小児感染症
No.5	自然消褪する皮膚病	増刊号	ダーモスコピー写真集
No.6	鑑別に苦慮した皮膚病(2)	Vol.40, No.1	小児先天性皮膚疾患
No.7	石灰化・骨化をきたす皮膚病	No.2	臀部の皮膚疾患
No.8	遺伝子検索を行った皮膚病	No.3	DIHS